



進化する採卵鶏

採卵鶏の鶏種性能の向上

今回は採卵鶏の生産成績及び卵質等について、鶏種性能の変遷を紹介。全農飼料畜産中央研究所(中研)では、産卵成績を定点観測する特別なモニター鶏群の飼養を長年にわたり実施している。

全農飼料畜産中央研究所 養鶏研究室

鶏種性能の変化

国内の採卵鶏は、海外育種メーカーによる先進的な育種改良技術で、生産成績が年々向上している。農水省生産局畜産部の統計調査では、1985年の産卵率は78.3%、50%産卵日齢159日、飼料要求率2.32となっており、育種改良の著しい向上が確認できる。現在の国内鶏種別シェアは、全農推定値では、ジュリア約30%、ジュリアライト約30%、マリア約10%、ボリスブラウン約25%、その他5%となっている。

マニュアルの成績変化

育種メーカーは各鶏種の飼養管理ガイド(マニュアル)を出版し

ている。ここには、産卵成績が記載され、過去のマニュアルの数値と比較する事で鶏種性能の変化を確認できる。また、マニュアルの改訂にともない産卵率が向上。特に産卵後半期の成績向上が確認できる(図1、2)。2004年頃と現在のマニュアルを比較すると18~80週齢の生涯産卵率の平均は、全ての鶏種で向上しており、ジュリア+2.4%、ジュリアライト+3.8%、マリア+3.8%、ボリスブラウン+1.6%であった。他方、卵重は、生涯成績で現状維持または若干の卵重低下の傾向にある(表)。以上から、産卵後半期での持続性の高い産卵率とサイズバランスの取れた卵重に鶏種性能が

向上している事が確認できる。

中研モニター鶏の卵質成績比較

中研のモニター鶏は、定期的に卵質検査(卵重・卵殻強度・卵殻厚・ハウユニット等)を行っている。2010年と17年のほぼ同時期に導入したジュリア鶏での卵質の比較を行った。その結果、ほぼ全ての項目において卵質検査結果は、向上している傾向にあった。他の鶏種でも同様な傾向が見られており、育種改良は生産成績と卵質成績の両者とも向上している状況にある事が分かる。

なお、中研のモニター鶏に給与している飼料は、成鶏導入からアウトまで一貫して同一成分の飼料を給与しており、配合内容も大きな変更を行っていない。このため、過去の鶏群から現在に至るまで鶏種性能の評価をほぼ同一飼育条件で行う事が可能となっている。

以上のようにマニュアルや中研でのモニター鶏の成績を見ると、鶏種性能が向上している事が分かる。最近の中研では、強制換羽を行わない技術開発に取り組んでいる。また、育種改良の進んだ鶏の性能を十二分に発揮できる飼養体系の確立及び、飼料開発の早期実現を目指す。

表. 18~80週齢の通期マニュアル産卵成績の推移

鶏種		2004年頃	2010年頃	2015年頃	2015 - 2004年差*
産卵率 (%)	ジュリア	82.0	83.4	84.4	2.4
	ジュリアライト	81.5	83.5	85.2	3.8
	マリア	78.4	80.3	82.3	3.8
	ボリスブラウン	81.9	82.9	83.6	1.6
卵重 (g)	ジュリア	61.3	61.3	61.6	0.3
	ジュリアライト	60.1	60.1	59.9	-0.1
	マリア	60.5	59.7	59.9	-0.6
	ボリスブラウン	62.7	61.9	62.9	0.1

*四捨五入前の値で計算

図1. ジュリアの21~80週齢マニュアル産卵率の変遷

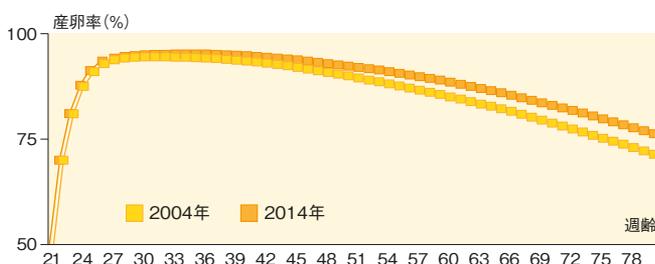


図2. ジュリアライトの21~80週齢マニュアル産卵率の変遷

